

巻頭言

第5回 CISMOR ユダヤ学会議は、2011年10月に開催された。本巻に収録された会議中の論考、コメントは、キリスト教とユダヤ教の関係の研究に、大いに貢献をしている。本年の会議は、キリスト教とユダヤ教の宗教共同体の形成期と、彼らが紀元後の千年間に自分たちの信仰を区別しようとした試みに焦点を当てた。イスラエルとアメリカ合衆国からの招聘研究者と同志社大学他、日本の大学からの研究者が上記の時代に出現した文献研究を通して、複雑な関係に注目した。

本巻は、研究者、学生、宗教間関係に関心のある読者全てを対象としている。英語でなされた講演は邦訳され、日本語で講演されたものは英訳した。従って本巻は言語上2部構成である。

本会議の企画、運営、本巻の出版にあたって関係者各位に心からの感謝を述べたい。英語論文の邦訳は、京都大学大学院の勝又直也准教授に、また日本語論文の英訳についてはコングレ京都支社にご尽力頂いた。浅野淳博教授の英文論文は、既出の論文である(詳細は当該論文を参照のこと)。

また CISMOR のスタッフの絶えざる献身と特に池田登貴子氏の責任ある任務執行、細部に至るまでの気配りに、心より感謝する次第である。

CISMOR ユダヤ学会議の伝統を引き続き継承したいと思う。第6回ユダヤ学会議も2012年秋に企画されており、本誌次号も2013年に刊行の予定である。

アダ・タガー・コヘン

勝又悦子

2012年7月於京都